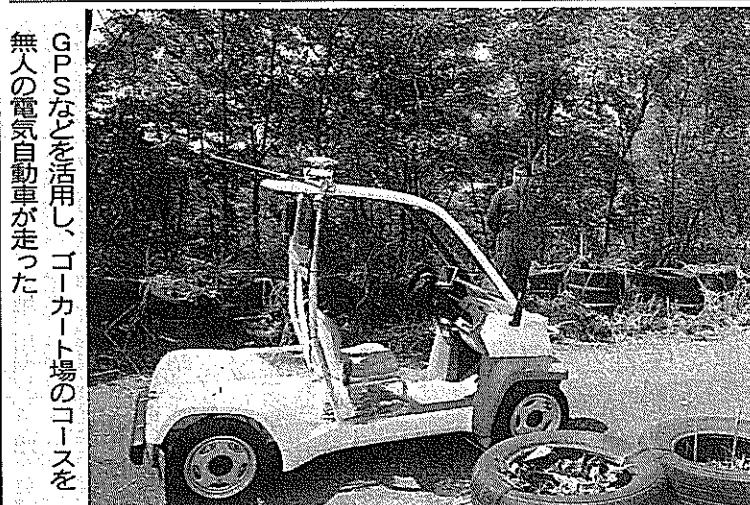


平成20年(2008年)8月9日(土曜日)



GPSなどを活用し、ゴーカート場のコースを無人の電気自動車が走った

GPS活用した無人車走行実験

栗原・鶯沢

IT(情報技術)と電気自動車を組み合わせ、高齢者が自動運転や遠隔操作で手軽に移動できる「コ・モビリティ」社会づくりの実証実験で、実験主体の慶應大は八日、栗原市鶯沢の細倉マインプラザで、衛星利用測位システム(GPS)で敷地内のゴーカート場を自動運転走行させる実験を公開した。自動運転実験は七月末から始まった。電気自動車は実験会場の地図データが入力されたコン

ピューターとGPSを搭載。約六百㍍のコースを走ったり、人が乗ついてもハンドルなどを操作せずに動いたりした。

慶大や連携協力協定を結ぶ市によると、日常生活の移動をどう支えるかを検証するため、今後、ゴーカート場を街に見立てて「病院」「スーパー」「学校」などの場所を設定して実験を行う。秋には市民を対象とした試乗を行い、乗り心地などのデータを集めることで、慶大は七月中旬から研究員数人を鶯沢地区に常駐させ本格的な実験を始めた。

本記事は河北新報社の著作物であり、無断転載を禁じます。